

2022年8月3日 園内研修 ふりかえり
 対話者：浅井幸子氏（東京大学大学院）

1 | 「子どもスタートの教育」実践を丁寧にかたちづくる

2 | グローバルな「幼小移行期」の議論と「円滑な幼小接続」

研修の目的

- 1 | 今年度の研究において、「子どもスタートの教育」実践と「学級」、これまで自明であった「協同」概念についてなど、問い直しの機会が増えている。これまでの「正しさ」を問い直す苦しさの中で、それをどう表現していくのか、「子ども理解」や「記録」「社会」などの概念も巻き込んで考えていく。
- 2 | グローバルな「幼小移行期」の議論を踏まえ、子ども自身が幼小移行期をいかに生きていくのか、それをどのように考えるのかについてご講義いただく。

参加者

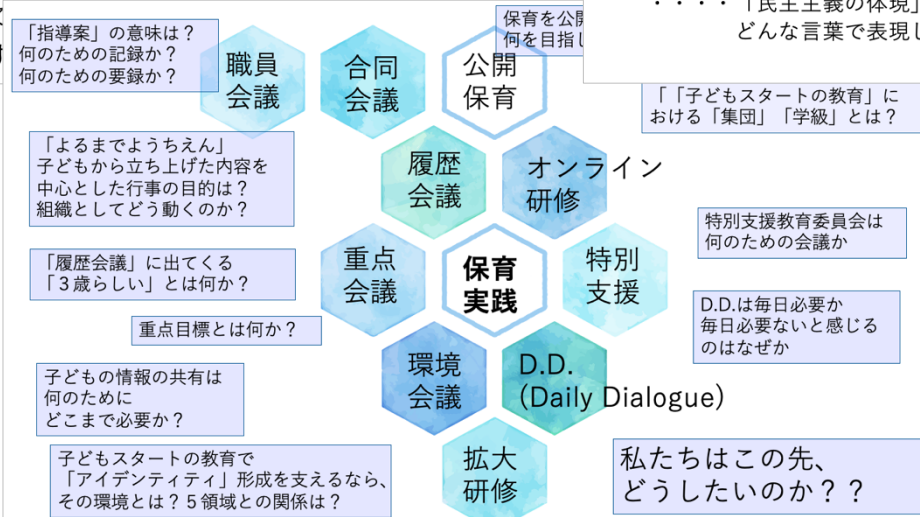
浅井幸子 教授（東京大学大学院）（オンライン）
 本園教諭 7名

「子どもスタートの教育」は
 方法ではなく、在り方

- ・「教師主導」でもなく、「子ども中心」でもない
 対話から意味を生成し、
 子どもとともにカリキュラムを「履歴」として創造するという
 在り方
- ・「子ども」とは、、、まだそれぞれで自己内対話中
 「大人になっていくもの」「未熟なもの」ではなく
 一人の市民であり、共に世界を創造して
 共に学ぶ存在であり、常に意味を生成する

大切にしたいこと
 「子どもスタートの教育」を丁寧に形作る
 ー私たちはどうありたいのか？

- ・自分はどうか、他者との関係性の中で自分を理解し大切にする
- ・差異の共存 前提としてのわからなさ
- ・方法としての対話 時間・他者を変えながら意味を生成
- ・正解や強さ ではなく 互いを支え関心をもつ 思想
 一方向への育ちをイメージする発達概念の問い直し
- ・・・・「民主主義の体現」とは少し異なる
 どんな言葉で表現していくのか



対話内容 抜粋

子どもとどうい世界を 出会わせようとしているのか

3歳児 虫との出会い

そこから「光る」、「暗いところ」という概念に出会っていく。

午前中で明るい保育室で、「暗かったら光るんだって」という言葉に

「へーっ」という心の動きから「暗くしたい」

→子どもから「暗くするってこういうこと」と、カーテンを閉める。

「こっちも閉めたら」「あっちも閉めたら暗くなる」

「隣の部屋が明るい」「夜はしーってする」って言う。

→教師は、「まさか3歳は、21名がそこで自分たちで言葉を発しない、動かない状況で静かにすることは」

→3歳だから難しい、4歳だから、と、年齢で判断するものではない。

その生き物の中で「意味」が見出されていくこと、

子どもの何かに変わったことで振る舞いが「意味」になって変わってきた。

子どもとどうい世界を 出会わせようとしているのか

4歳児の「元気調べ」

「ねむい。どうしてねむいかという。。。」

→自分はどうなのか、自分の言葉を探して語っている。

教師自身が「5歳になったらする」と思っていたのがあったのではないか。

目の前の子どもと対話することで、彼らは自分で感じたことを言葉にするし、仲間のことも見ようとするのがわかった。



意味生成の記録 (試作)

幼児教育と小学校教育の 出会い

奈良女子大学附属幼稚園

2022年8月3日

内容

- はじめに
- グローバルなトランジションの議論
- 出会いの場のビジョン
- 日本の幼保小接続の文脈
- 幼年教育という思想
 - ・ 幼年教育の概念
 - ・ 占領下の教育改革
 - ・ IFELと雑誌『幼年教育』
 - ・ 四六答申
- おわりに